

第2期教育等の振興に関する施策の大綱

期間：令和2年度～令和5年度（4年間）

基本目標の測定指標の状況（令和3年5月末時点）

「知」の目標の状況

「徳」の目標の状況

「体」の目標の状況

基本理念（目指すべき人間像）の実現に向けた施策の体系図

基本理念

学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

知・徳・体の調和のとれた生きる力

知の分野

知識・技能
思考力・判断力・表現力
学びに向かう力

徳の分野

自己肯定感・規範意識
他者と協働する力

体の分野

健やかな体力
基本的な生活習慣

子どもの成長

6つの基本方針の実現に向けた施策群

I チーム学校の推進

I-1 チーム学校の基盤となる組織力の強化

I-2 チーム学校の推進による教育の質の向上

II 厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実

II-1 多様な課題を抱える子どもへの支援の充実

II-2 特別支援教育の充実

III デジタル社会に向けた教育の推進

III-1 先端技術の活用による学びの個別最適化

III-2 創造性を育む教育の充実

IV 地域との連携・協働

IV-1 中山間地域をはじめとする各地域の教育の振興

IV-2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

V 就学前教育の充実

V-1 就学前の教育・保育の質の向上

V-2 親育ち支援の充実

VI 生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保

VI-1 生涯にわたって学び地域社会に生かす環境づくり

VI-2 私立学校の振興 VI-3 大学の魅力向上

VI-4 文化芸術の振興と文化財の保存・活用

VI-5 スポーツの振興 VI-6 児童生徒等の安全の確保

6つの基本方針

6つの基本方針に関わる横断的な取組

1 不登校への総合的な対応

2 学校における働き方改革の推進

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた測定指標 (R2年度)



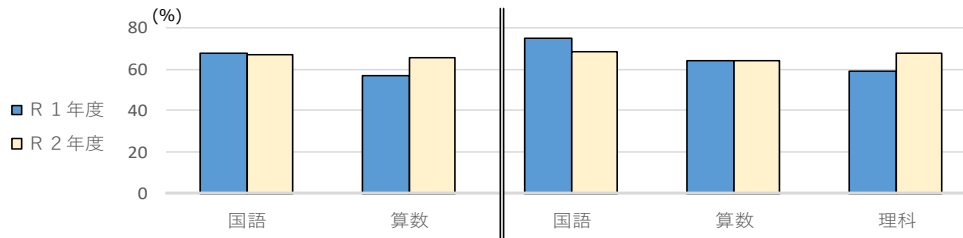
高知県学力定着状況調査 (12月) において、
・小学校4・5年及び中学校1・2年の国語、算数、数学を前年度と同水準とする

■ 高知県学力定着状況調査結果 (R1, R2年度)

◇ 本県の平均正答率

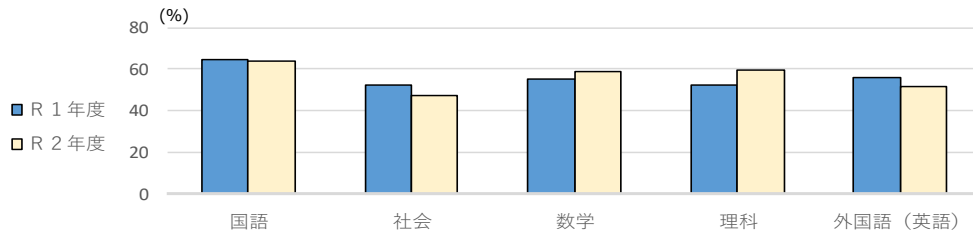
小学校

学年		小学校第4学年		小学校第5学年		
教科		国語	算数	国語	算数	理科
正答率 (%)	R1年度	67.5	56.7	75.3	64.3	59.1
	R2年度	66.7	65.8	68.2	64.0	67.9

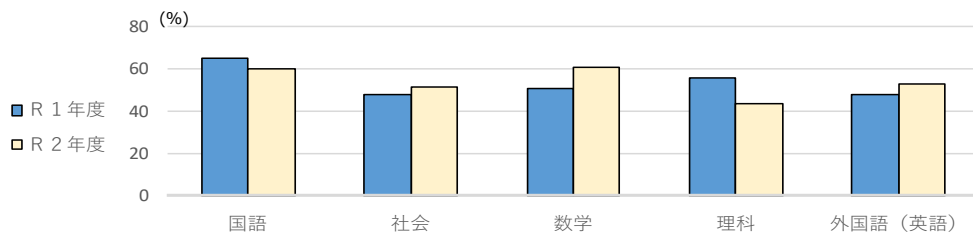


中学校

学年		中学校第1学年				
教科		国語	社会	数学	理科	外国語 (英語)
正答率 (%)	R1年度	64.4	52.6	54.9	52.5	56.2
	R2年度	64.2	47.6	58.5	59.9	51.3



学年		中学校第2学年				
教科		国語	社会	数学	理科	外国語 (英語)
正答率 (%)	R1年度	65.2	47.7	50.5	55.8	47.5
	R2年度	59.8	51.3	60.5	43.6	52.9



- 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響による全国学力・学習状況調査の中止に伴い、高知県学力定着状況調査の結果より子どもたちの知の状況を把握しました。その結果、小・中学校ともに、多くの教科で前年度と同等もしくは、それ以上の平均正答率となっており、前年度と同水準といえます。
- 目的に応じて複数の情報から正しい情報を根拠として読み取り、原因や結果を説明したり、解決方法の構想を立てたりすることに課題がみられました。各教科の指導において、複数の資料を提示し、目的に応じて情報を収集、整理、分析し、それらを基に表現させる学習の充実に努めていきます。
- 言語活動を充実させるとともに、デジタル技術も活用しながら、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、問題解決能力の育成を図っていきます。

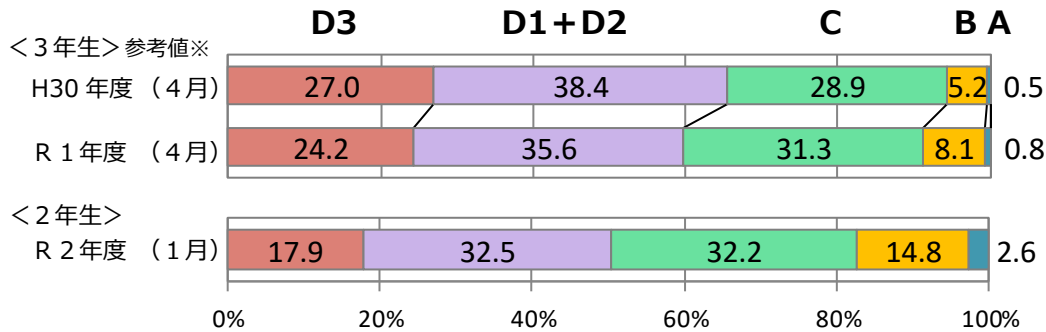
測定指標



高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする

■ 学力定着把握検査結果

◇ 2年生1月の3教科総合の結果 (H30,R1年度3年生(4月)は参考値※)



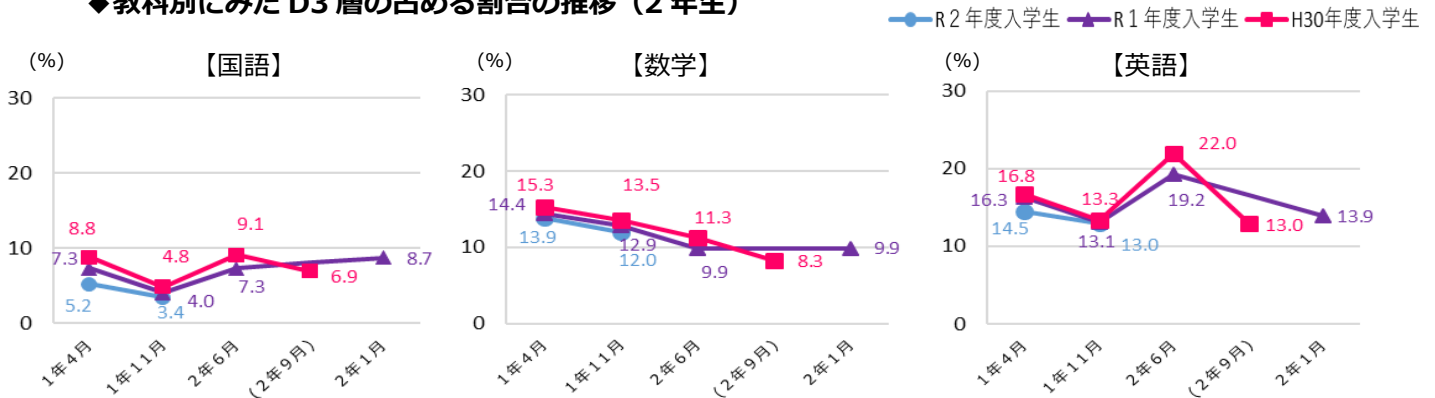
※数値は学力定着把握検査I(29校)の結果(その他7校では別検査を実施)
 ※評価尺度である学習到達ゾーンの内容は下表のとおり

学力定着把握検査Iの評価尺度

学習到達ゾーン	進路選択肢	
	進学	就職
A	国立大合格レベル	上場企業などの大手の就職筆記試験
B	公立大合格レベル	や公務員試験に対応できるレベル
C	私大・短大・専門学校の一般入試に対応可能なレベル	就職筆記試験における平均的評価レベル
D	上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞する学生が多い	就職試験に必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をする上で支障が出ることが多い(D1・D2) 筆記試験が課される企業では不合格になることが多い(D3)

〈参考〉

◆ 教科別にみたD3層の占める割合の推移(2年生)



※県高等学校課調査(国の「高校生のための学びの基礎診断」の認定を受けた測定ツールを活用)
 ※R1年度入学生より、2年生の検査を9月より1月に変更

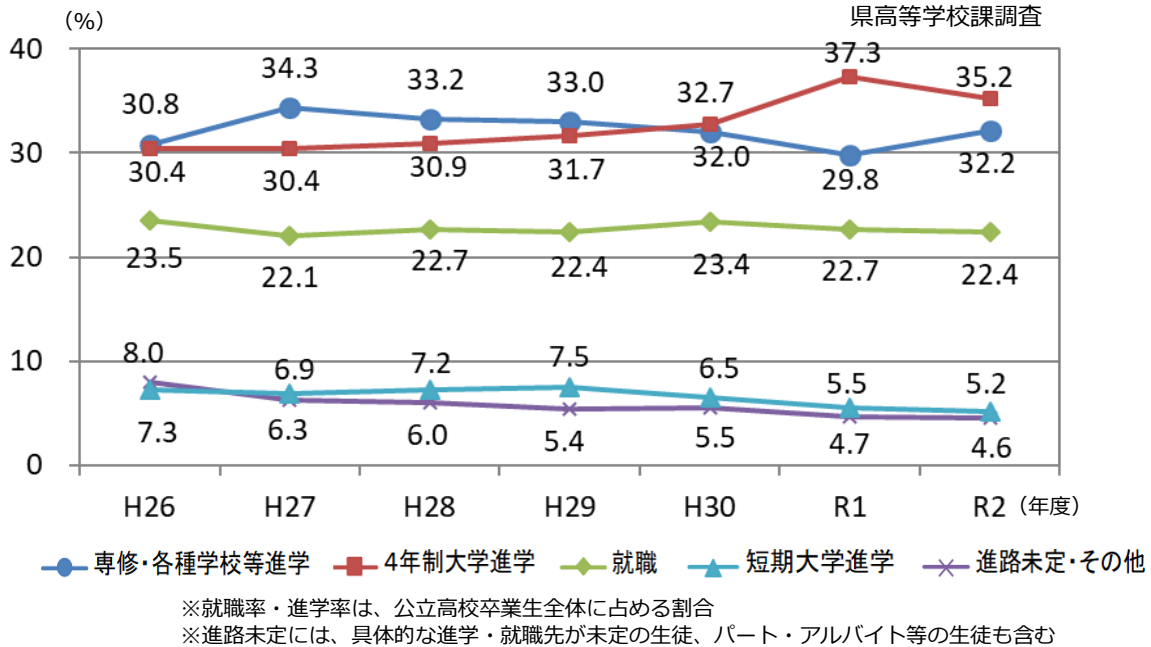
- 学力定着把握検査の結果のうち、進学に重点を置く学校を除く県立高等学校29校のものをみると、学習内容が十分定着しておらず、進学や就職の際に困難が生じることが予想される生徒の割合(以下「D3層の生徒の割合」という。)は、令和2年度の2年生(1月)で17.9%となっており、参考値※と比べ減少しています。
- 授業改善の取組がより実効性をもつよう、引き続き、学校支援チームの体制を強化するとともに、企画監・学校経営アドバイザー等による学校訪問を通じて、これまで以上に各校の取組に対する支援の充実を図っていきます。

測定指標

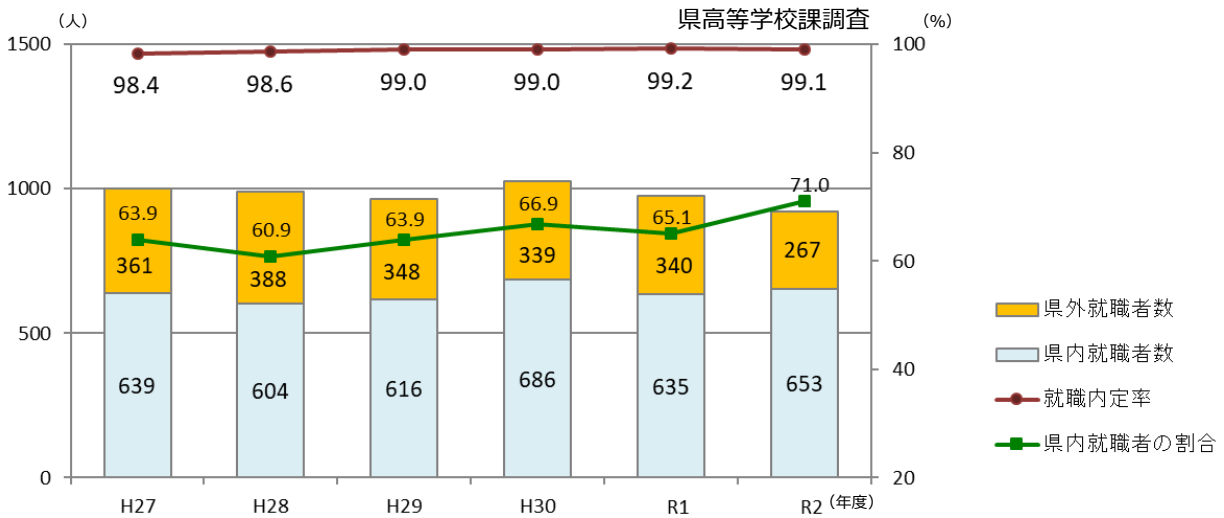


高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

■ 公立高等学校卒業者（全日・定時・通信制）の進路状況



■ 公立高等学校卒業者（全日・定時制）の就職の状況



- 公立高等学校卒業者の進路の状況について、進路未定で卒業する生徒の割合は減少傾向にあり、平成26年度の8.0%から令和2年度は4.6%と、およそ半減しています。引き続き早い段階から、進路実現のための取組を強化していきます。
- 4年制大学の進学者の割合は、着実に増加していましたが、令和2年度は35.2%となり、令和元年度と比べるとやや減少しました。学校における進学に向けた情報提供の強化と生徒の情報収集能力を高める取組を進めていきます。
- 就職内定率が着実に改善してきたことにあわせ、県内就職者の割合も上昇傾向にあり、近年は60%を、令和2年度は70%を超えています。今後も、生徒が地場産業や企業についての理解を深め、地場産業のニーズに対応できる知識や技術を習得できるよう取組を進めます。

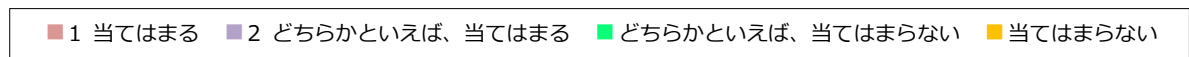
新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた測定指標 (R2年度)



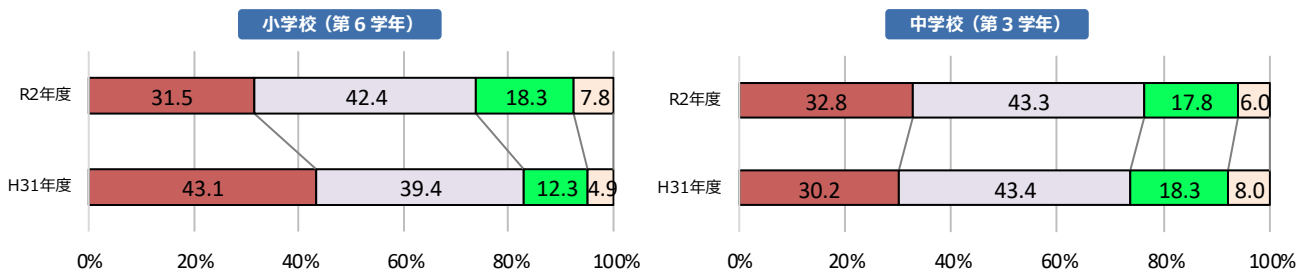
高知県児童生徒学習状況調査 (11月) において、
 道徳性等 (自尊心、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など) に関する項目
 の肯定的回答の割合を前年度と同水準とする

■ 令和2年度高知県児童生徒学習状況調査 (R2.11月実施) 結果

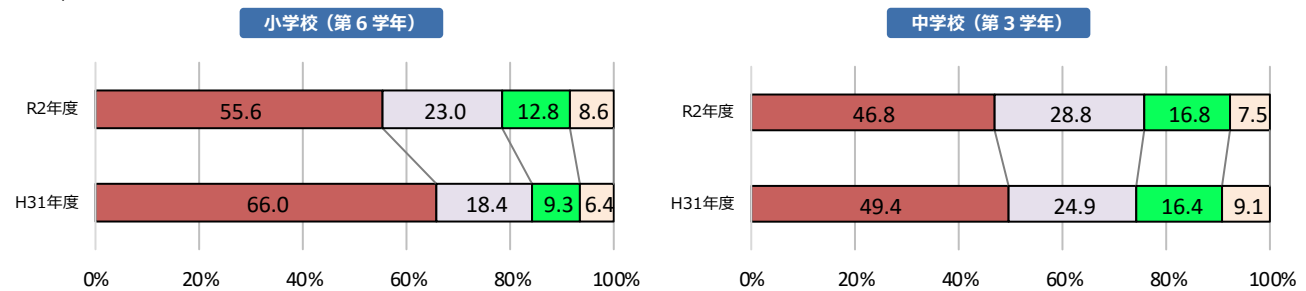
※比較年度のH31年度は、全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査 (H31.4月実施) 結果



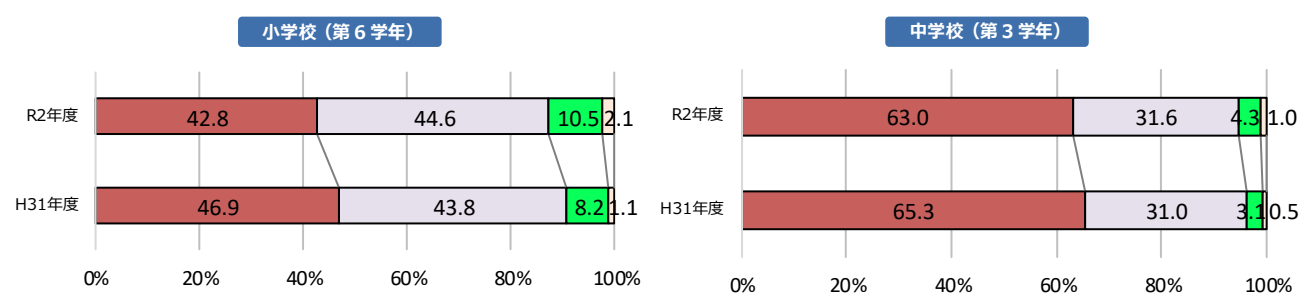
◇ 自分にはよいところがある



◇ 将来の夢や目標を持っている



◇ 学校のきまり (規則) を守っている



■ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で全国学力・学習状況調査 (児童・生徒質問紙調査) が中止されたことに伴い、高知県児童生徒学習状況調査の結果より子どもたちの徳の状況を把握しました。例年とは調査実施時期が異なるため、単純に経年比較はできないものの、小学校では全ての項目において肯定的な回答を行った児童の割合が減少しています。また、中学校は同水準といえます。

■ 小学校においては、保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している学校ほど「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合が高いという相関関係がみえています。今後も学校、家庭、地域が一体となって道徳教育を進めるとともに、子どもが将来の目標を早期に認識できるよう、多様なロールモデルの提示やキャリア・パスポートの活用などのキャリア教育を強化していきます。

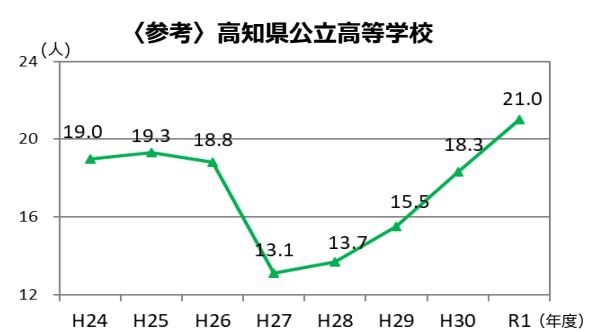
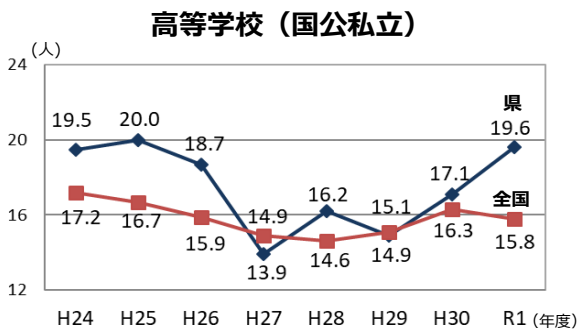
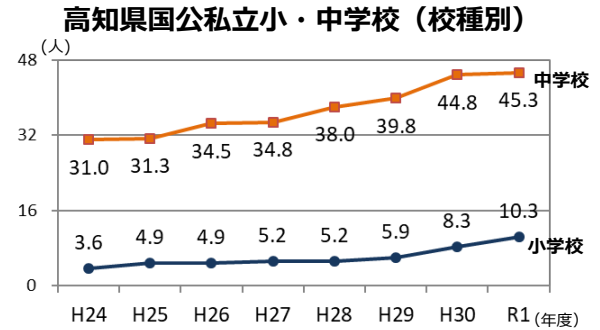
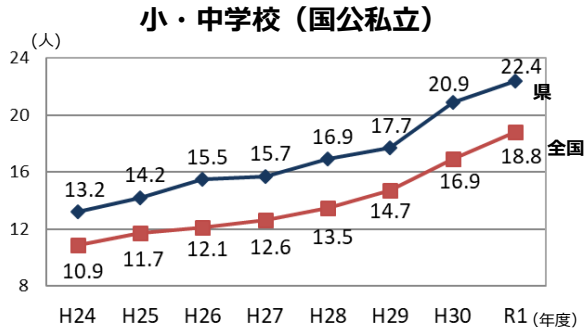
測定指標



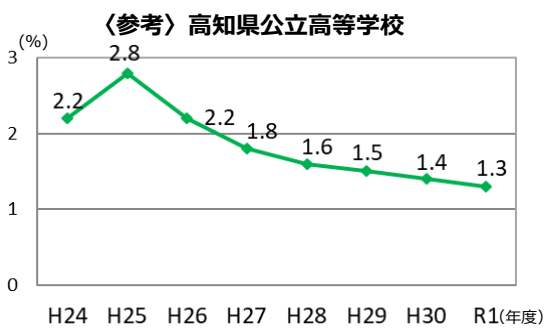
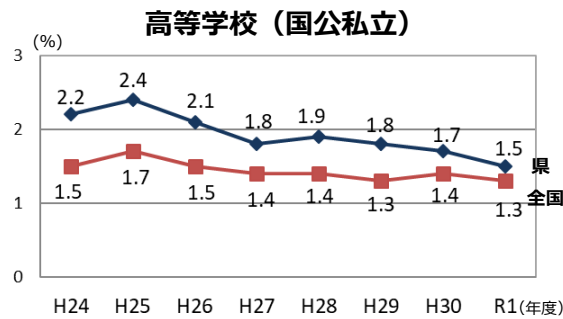
生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる

■ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果（H24～R1年度）

◇ 不登校 ※数値は1,000人あたりの不登校児童生徒数

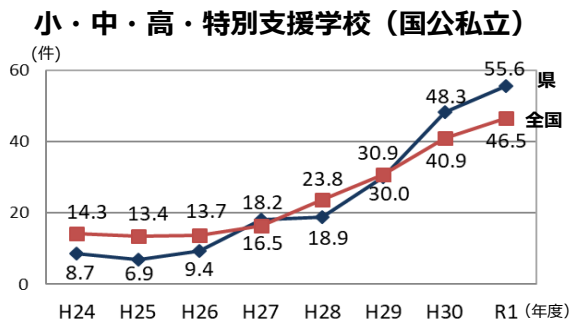


◇ 中途退学

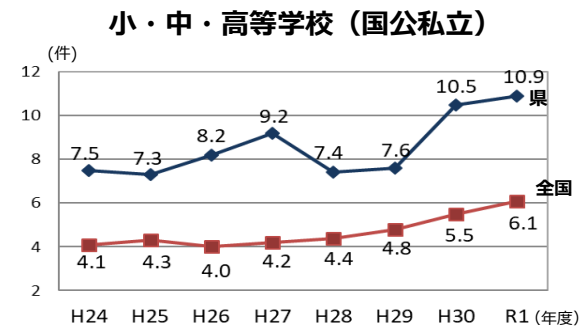


〈参考〉

◇ いじめ ※数値は1,000人あたりの認知件数



◇ 暴力行為 ※数値は1,000人あたりの発生件数



- 1,000人あたりの不登校児童生徒数は、小・中学校は、高知県、全国ともに増加しています。高等学校も、平成28年度以降増加傾向にあります。全体的に新規不登校児童生徒数の増加の傾向があるため、新規発生を抑制する取組を進めていきます。
- 高校生（国公立）の中途退学率は、全国平均を上回っているものの、近年は着実に減少しています。今後も、各学校において課題改善に向けた取組を進めていけるよう支援していきます。

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた測定指標 (R2年度)



高知県体力・運動能力、生活習慣等調査 (6月～12月) において、

- ・小・中学校の児童生徒の体力合計点を前年度と同水準とする
- ・総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値と同水準とする

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (R1年度)
- 高知県体力・運動能力、生活実態等調査結果 (R2年度)

◇体力合計点 (8種目の実技の総合点) 県結果の比較

小5	R1 (4～7月調査)	R2 (6～12月調査)	中2	R1 (4～7月調査)	R2 (6～12月調査)
男子	53.0	52.9	男子	41.6	40.9
女子	55.6	55.7	女子	48.9	47.7

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (H28～R1年度)
- 高知県体力・運動能力、生活実態等調査結果 (R2年度)

◇総合評価でDE群の児童生徒の割合 県結果の比較 (H28～R1年度の平均値、R2年度)

小5	H28～R1 過去4年間の平均値	R2 (6～12月調査)	中2	H28～R1 過去4年間の平均値	R2 (6～12月調査)
男子	32%	35%	男子	29%	30%
女子	24%	22%	女子	14%	16%

※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査中止

※R2年度の県 (任意) 調査の対象者は、全種目実施者: 小5: 2,406名 (46.0%)、中2: 2,713名 (63.4%)

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で全国体力・運動能力、運動習慣等調査が中止されたことに伴い、高知県体力・運動能力、生活実態等調査の結果より子どもたちの体の状況を把握しました。
(令和2年度県調査は任意調査のため、対象の児童生徒数は全体の半数程度)
調査期間 (6～12月) も例年とは異なり、正確な比較はできないものの、小学校の体力合計点は、ほぼ前年度と同水準となっている一方、中学校では男子は0.7ポイント、女子は1.2ポイントの低下がみられました。
一斉休業等により運動の機会 (部活動を含め) が減少したことが、特に中学生の体力に影響していると考えられ、体育の授業や部活動における運動など、日常的な運動の機会の確保に努めていきます。
- DE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値と比べると、小学校女子は減少していますが、小学校男子、中学校男女は増加しています。
一斉休業等により運動の機会 (体育の授業等) が減少したことが、DE群の児童生徒に影響していると考えられ、体育の授業で個に応じた指導に取り組むなど、運動の機会の充実を図っていきます。